



いま学校に必要 人と予算

県民主教育研究所 夏期学習会

●私が現職教員時代に事務局長として運営に携わっていた高知県民主教育研究所の夏期学習会が高知大学で開催され、その午後の部に久しぶりに参加しました。(9月7



日)

テーマは教員不足問題。ゆとりある教育を求める全国の教育条件を調べる会の山崎洋介さん(奈良市小学校教員)を講師に、高知県の教員不足の現状と原因を分析し、ゆとりある学校をどうやって作っていくのか探りました。

高知県の教員数 全国最低の充足率

文科省の定める標準定数に比較して教職員の配置実数の比

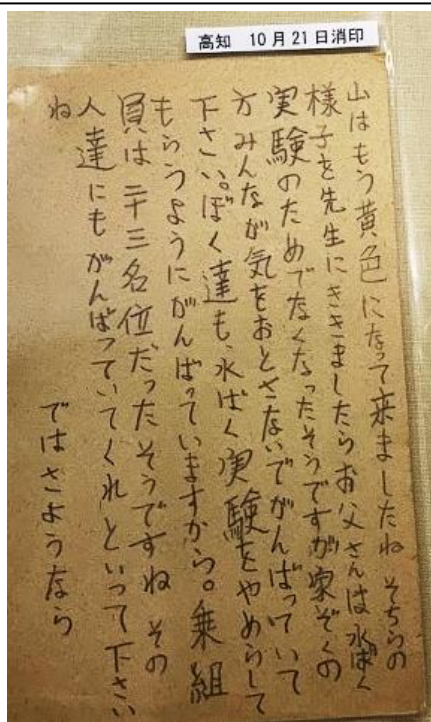
率＝充足率では、高知県の教職員充足率は全国最低で、国が負担した教員配置に必要な予算配分額を国に返還している実態がだされました。研究所として、現状を解決していく方向性について論議がなされました。

私も、2年前に県議会で取り上げた報告をさせてもらいました。基礎定数に準じた学級担任、教科担任の配置をぬかりなく行い、子どもたちの学習に穴が開くことがないように国の財政措置を伴う教員配置を求めていきましょう。

第五福竜丸乗組員への

高知の子どもたちからの手紙

「議会と自治体」冊子に掲載したい文章を調べに都立第五福竜丸展示館へ伺いました。それは、久保山愛吉さんが原爆症で1954年9月23日に亡くなった後、全国から届けられたお見舞いやお悔やみの手紙のなかにある高知の子どもたちからの手紙です。



キラリン にやんでも通信



「お父さんは水ばく実験のためでなくなつたそうですが家族の方みんなが気をあつたさないで・・・ぼく達も水ばく実験をやめらしてもらおうようにがんばっていますから」と記されています。字数の都合で掲載は諦めましたが伝えたいですね。「原水爆の犠牲者は、わたしを最後にしてほしい」もうすぐ久保山愛吉さん、65回忌をむかえます。